

感謝とご報告

ガバナー 世戸一夫



光陰矢の如しと申し
ますが、昨年7月月信
第1号に「新しい年度
を迎えて」と挨拶文を
書きましたが、早や1
年、今退任のご挨拶を

皆様の前で申し上げる事が出来ますのは、誠に夢のようであり、過ぎにし1年の歩みをかえりみて、今私の心は、ご指導頂いた先輩の方々、ご協力下さいました地区幹事、地区委員、各クラブの会長、幹事様をはじめ、約4,000人に近い当地区のロータリアンの方々に対して感謝の心で一杯になっています。何んとお礼を申し上げてよいか言葉を見出すのに苦しむ思いでございます。

最初は、1昨年神戸ポートピア国際会館で開かれました、268地区、266地区合同年次大会の席上、皆様の推挙を受け、歴史と伝統に輝く当266地区のガバナーノミニ（1983～84年度）のご指名を正式に受けました時は、その責任の重大さに、身の引きしめる思いが致しました。その後、ハーバート・A・ピッグマン事務総長より親書を頂き、「やがて、あなたのがバナーとしての奉仕が始まるでしょう。その一年間多くの要請と直面する事でしょう。しかしその大変な仕事はあなたに大きな満足感を与え、その奉仕の喜びは、その後の多くの年月永くあなたの中に忘れ難い感激として止ることでしょう……云々、」の激励の手紙を頂き大変勇気づけられました。今その任務を終って、静かに反省して見ますと、正に頂いたその言葉の通りであった事を実感しています。

実際面に於ては、ピッグマン事務総長の代理とも云う可き、R.I.日本支局の抽冬忠氏がR.I.との関係に於て、大変親切に面倒を見て頂き、先輩のバスタガバナーの方々のお知恵

を拝借して、むつかしい問題も割合にラッキーに処理して行く事が出来ました事を本当に感謝しています。

いくつかの例を挙げて見ますと、**G.S.E.の件**につきましては、先輩戸田直前ガバナーの時から懸案でありまして、英国の111地区と**G.S.E.**交換を行う具体的な交渉を、**R.I.**理事の**PIKE**氏、当地区の木川稔団長が大変なご努力を頂いて、航空便を何通も出し、電報や電話で打合せて、やっと、山中**G.S.E.**委員長のもとで団員を選任、9月1日に出発する準備が着々と進められています。**ロータリー財団の学生**につきましても、菅田委員長始め、委員の方々の大変なお骨折を頂いて、昨年度の残りの学生の方々も留学先を決定、1985～86年度学生8人と補欠2人を選んで頂き、田中学友委員長のご努力で、学友の**O.B.**の方々のお助けも頂いて、早くからオリエンテーションを可成りインテンシブに行う事が出来て感謝しています。

米山奨学生につきましては、例年の如く京都で選考を行い、月信12号7頁にご紹介しました。学生10名及び、本年度より始まりました地区ガバナーが決める学生1名、その他にクラブが半分もって頂く学生ら2名計13名を選び、これも、武尾委員長のお骨折で**O.B.**の組織が立派に出来上りまして、充分なオリエンテーションを行い、カンセラーの方々温かい、心のこもったお世話を頂き本当に感謝しています。一方米山奨学会の寄付額も、4月末の統計では、全国第2位でございますが、会員1人当りのご寄付額は、6月末で目標を突破して17,696円となって、全国第1位となり驚き且つ、感謝しています。

ロータリー財団の方は、月信13号にご報告しましたように、昨年の例にならって、年次大会の剰余金より、各クラブの大会への会員

登録数に応じて、6,875\$3を、各クラブの名前で、財団へ振り込みましたので、相当な成績になる事と、委員の方々と共に喜んでいきます。これも地区年次大会に全クラブの方々が予想以上のご参加、ご協力を頂いたお蔭によるものであります。それによって、ユニバシアード神戸大会、向笠広次直前R.I.会長記念児童公園等への寄付を行う事が出来、又、大会記念として、会場のザ・シンフォニーホール前の、ロータリーの森に、太陽電池時計塔を建て、金一封を大阪市長を通して、21世紀協会に寄付する事が出来るようになり、これも大きな感謝です。これが契機となりまして、伊藤恭一R.I.理事エレクトのご尽力により、将来大阪でロータリー国際大会が開く事が出来るようになれば望外の喜びでございます。

21世紀を担う**青少年への奉仕**に於ても、種田P.G.と津江アドバイザー、川井地区委員長の方々が中心となって、委員の方々のご努力により、去る3月3日～4日、ホテル・サンルート南千里で、大阪南R.C.、大阪南R.A.C.がお世話役になって、全国R.A.C.地区代表者会議を開き、9月10日を「R.A.C.デー」と定める事が出来、更にR.A.C.運動を推進する事を決議致しました。

R.A.C.は5月13日、I.A.C.は昨年7月24日にそれぞれ年次大会を開催、特にI.A.C.は「アジアに井戸を！」のキャッチフレーズで街頭募金を行い、ホストクラブの大阪南西R.C.外多くのロータリアンも若い人達と一緒に汗を流して募金を共にした事は、大変印象に残っています。

R.Y.L.A.も吉川委員長のお骨折によって年々盛んになって参りまして、今年は米山奨学会の留学生も参加して大変国際理解に役立ったように思われます。

国際奉仕部門も活発に行われ、青少年交換も盛んになり、今年度は米国の外にフランスとの学生交換を行い、又、459地区(ブラジル)より2名の学生を受入れ、新しく交換学生の

OB会(R.E.X.)をスタートする事が出来ました。W.C.S.では皆様のご協力により、リベルダーR.C.に病院建設(老人用)のため\$5,000を贈った記事が大きく現地の新聞に報道されました。これは国際交流委員長宮田氏の大変なご努力が大きな実を結んだものと思われまます。現在、海外と姉妹クラブをもっているクラブが41クラブ、姉妹クラブの数は83あり、更に増加の傾向にあります。

社会奉仕部門は菅生P.G.**職業奉仕部門**は峯村P.G.のご担当で、それぞれ重要な働きをされ、一例をあげますと「日本松の緑を守る運動」は当地区よりスタートして、全国的な運動に展開しつつあります。

拡大部門に於ては、平井P.G.の強力なリーダーシップのもとに、拡大カンセラーや拡大委員の方々の努力が実り、先づ大阪駅R.C.が1月25日大阪北R.C.のスポンサーで、大阪梅田R.C.の協力によって、誕生、続いて2月23日、大阪なにわR.C.が、4月16日には池田くればR.C.と大型のクラブが生まれ、年度末には懸案の交野R.C.が26名の会員をもって、枚方一くずはR.C.の10周年記念事業として、枚方R.C.のご協力のもとに誕生し、6月28日R.I.より認証されました。合計4クラブの拡大増強が成功し、これに関連して、会員増強も、270名以上の増員、7.6%を越える増強を達成することが出来ました事は、当地区全体が、R.I.会長スケルトン氏のアピールにこたえて熱心にご努力いただいた結果であり、R.I.会長賞も18クラブが受賞の榮に輝かれました事は、ガバナーとして感謝にたえず、R.I.会長よりも、優秀な地区としての感謝状を贈られて参りました。最後のこの月信に、詳しく記載し、心より皆様にお礼を申し上げます。

最後に先輩P.G.のご指導のもとに、箕面中央、吹田西、枚方、東大阪中、大阪西北、大阪東淀、大阪阪南各R.C.の方々がI.G.F.をホストクラブとして成功され、地区内全クラブの協力があって立派な成果を収められた事を

重ねてお礼申し上げます。当地区の委員の方々は実にご熱心で、その熱意に支えられ押し出されて、相当な成果を挙げ(1983~84)年度を終えることが出来ました事を感謝と感激に

みちて、心より御礼申し上げます私の報告とご挨拶とさせていただきます。どうも皆様ありがとうございます。ありがとうございました。

直前ガバナー 世戸 一夫

会長賞受賞クラブ (19クラブ)

クラブ名	会長名	R.I.へ申請日	地区ガバナーへ発送	クラブ名	会長名	R.I.へ申請日	地区ガバナーへ発送
大阪住之江	福井 幸男	2/1	2/14	摂津	竹内 正雄	3/7	3/21
大阪難波	塩見 善信	2/1	2/14	大阪平野	福川 善介	4/5	4/16
大阪柏原	高井 利一	2/27	3/7	茨木	西田 陽一	5/7	5/22
吹田	吉田 益男	2/27	3/7	千里	竹内 豊助	5/14	5/23
吹田西	野尻 弘	2/27	3/7	豊中大阪国際空港	松下十三雄	5/14	5/23
大阪うつば	田季 晴	2/27	3/7	大阪城東	木本 信男	6/8	6/22
守口	岡田 正蔵	3/6	3/19	大阪南	安田 理雄	6/8	6/22
大東	見浪 光夫	3/6	3/19	大阪東淀	高井 利一	6/14	7/9
大阪東	牧野 耕二	3/6	3/19	大阪東	牧野 耕二	6/20	7/3
大阪心斎橋	村田長兵衛	3/6	3/19				

全ポール・ハリス・フェローへの書簡

フェローの皆さま：

ロータリー財団のプログラムと、ロータリアンひとりひとりの理想、活動力、熱意、寛大な心は切り離して考えることはできません。

今まで、私達は、ノルウェーのロータリアンが英国とウガンダのロータリアンと協力してカンパラに1万服の破傷風ワクチンを送るのを見ました。イタリアのロータリアンがモロッコのロータリアンと協力して、カサブランカに50万服のポリオ・ワクチンを送るのを見ました。アメリカのロータリアンがペルーのロータリアンと提携して、ポリオにかかった児童に足の矯正具を渡すのを見ました。また、世界中のロータリアンが、来訪中の奨学生や実業人多数を思いやり深く歓待しているのを見ました。

このような記事だけで本ニュースレターや他の出版物を埋め尽くすこともできるでしょう。毎日、毎週、毎月、ロータリアンは、この財団の高遠な理想を遂行するために活動しています。

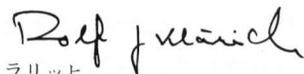
各国の保健機関また国際的保健機構を援助し、2005年(ロータリー100周年)までに世界の児童をポリオから

守る、というロータリーの具体的目標に関して、私達は3-Hプロジェクトを承認し、1,900万の児童にこの恐ろしい病気に対する免疫措置を与えようとしています。世界保健機構とCenter for Disease Controlの調査によると、この3-Hプロジェクトは約8万人の児童をポリオから救うと言われています。

ポール・ハリス・フェローとして、皆さまは、寄付金ばかりでなく、皆さまの理想、エネルギー、献身、寛大さで、これらの計画、プロジェクト、成功に卓越した地位を占めました。

私達は、10万人を超すポール・ハリス・フェローの無私の活動に感謝しています。引き続きご支援下さるようお願いします。皆さまの指導力が必要です。心から謝意を表します。

敬 具



ロルフ J.V. クラリッヒ

1983-'84年度ロータリー財団管理委員会委員長

ポール・ハリス・フェローに新たな表彰方式

ロータリー財団管理委員会は、ポール・ハリス・フェローが財団プログラムに引き続き財政援助を送ることを表彰、奨励するために、新たに年次寄付奨励プログラムを発足させました。これは1984年7月1日から実施されます。

各寄付期間(7月1日から6月30日まで)内に、ポール・ハリス・フェローとなる全寄付者に新しいポール・ハリス・フェロー襟ピンを贈ります。襟ピンには金色のふちがあり、最初の寄付のほかに米貨1,000ドル寄付するごとに最高5,000ドルまでブルーのサファ

イアが一つずつ付きます。管理委員会から礼状が送られるほか、同一寄付期間における同種の寄付者の名簿に氏名が載せられます。

誰かをポール・ハリス・フェローまたは準フェローに指名するためにこの寄付を使うことができますが、追加の認定を受けるのは寄付者自身です。

この新方式は、今までに米貨1,000ドルの倍数に相当する寄付をした全ポール・ハリス・フェローにも拡大されます。但し、R.I.事務局に証明できる資料を提出して下さい。